

中学校保健体育教師を対象とした保健授業の実施に関する調査研究(第1報)：
保健授業をより円滑に実践するための教師のニーズと、そのサポート体制の構築に向けて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤田, 信一, 植田, 誠治, 山本, 章, 谷, 健二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010327

中学校保健体育教師を対象とした保健授業の実施に関する調査研究（第1報） ——保健授業をより円滑に実践するための教師のニーズと、そのサポート体制の構築に向けて——

A survey of health instruction on junior-high school in shizuoka

赤 田 信 一・植 田 誠 治*・山 本 章・谷 健 二

Shinichi AKADA, Seiji UEDA, Akira YAMAMOTO, Kenzi TANI

（平成12年10月10日受理）

【はじめに】

現在、青少年における喫煙・飲酒・薬物乱用の問題、心の健康や性の逸脱行動などの問題が指摘されている。このような健康問題を未然に防ぎ、生徒が自らの健康を保持・増進するための実践力を高めていくために、中学校にて実施されている保健授業に寄せられる期待はこれまでも増して高まっている。中学校における保健授業については、保健体育科の中の保健分野として位置付き、その3学年間において平成元年発行の学習指導要領では55時間が、平成10年発行の学習指導要領では48時間程度の実施が示され、制度的にも保健授業の時間を確保することで、生徒の健康の保持増進に向けた環境が整えられている。

今後、中学校における保健授業をより充実したものにするためには、このような制度上の改定に加え、実際に授業を行う教師に対するサポート体制の確立が不可欠であろう。もし、保健の授業を行おうとする教師が、何らかの理由でその保健授業の実施にいわゆる「やりにくさ」を感じていたり、教材や教具、その他保健授業を進める上での様々な情報が教師の手元に不足している状況があったりしたならば、円滑な保健授業の実施は困難となる。この様な、保健授業の実施に際する困難さは、保健授業の内容（質）や実践数（量）に直接的に影響を与え、このことが、「生徒の健康課題に対応できない保健授業」、「教育的にも価値の低い保健授業」を生じさせる要因にも成り得る。何をもって「よい授業」、「成功した授業」とするのかといった授業の評価基準の設定は、教育的な観点を加味すればするほどその設定は難しくなる。しかしながら、授業を「良いもの」、「価値あるもの」に導くキーパーソンのひとり、その授業を行う教師であることは間違いないであろう。生徒にとって実践的な理解が可能となり、価値の高い保健授業の成立を目指している教師に対し、その実現に向けた「教師に対するサポート体制の確立」は極めて重要なことである。

そこで筆者らは、「保健授業の実施に際する教師へのサポート体制の確立」を目指し、研究プロジェクトを組み作業を進めている。この研究作業の一環として、静岡県下中学校保健体育教師に対して、保健授業の実施に関する実態の調査と、ニーズ（保健授業を円滑に行うための要望）の調査を行った。本稿では研究プロジェクトの第一報として、その実態とニーズの調査結果を単純集計として報告するものである。

*茨城大学教育学部

【調査方法・対象・内容】

2000年2月、静岡県下の中学校の保健授業担当教師を対象として、調査表を郵送する方法で調査を実施した。回答に際しては学校名および回答者名は無記名とした。サンプリング方法は、2000年全国学校名鑑で調べ、1/4を系統抽出し、中学校73校に各校2部ずつの調査表を郵送した。なお、調査表に回答してもらう保健授業への取り組みの実態等は、当年度一年間のものとし、また、調査の対象者を、各中学校にて当年度に保健授業を担当した教諭から2名とし、その回答をお願いした。

調査時期は2000年2月中旬から3月中旬であった。期間途中、督促状を郵送し、最終的に回収できたのは52校であり、回収率は71%となった。

調査内容は、保健授業の取り組みの実態、保健授業の教材や教具ならびに研修などへのニーズ・要望、保健授業の自己評価などであった。

【結果】

1. 回答者の属性 (表1～6)

性別についてみると、男性が77.8%、女性が22.2%であった。教職経験の年数は、0年～12年が28.9%、13年～25年が54.4%、26年以上が16.7%であった。

取得免許状の種類は、保健体育が88.9%、保健体育と他教科が7.8%であった。

保健科教育法ないし保健体育科教育法の講義科目を履修したかについては、47.8%のものが何らかの形で履修していたが、履修していないとするものが16.7%あった。

学校の生徒数は、全校360人以上の学校が80.0%であった。

授業担当の学年は、1年生が21.1%、2年生が27.8%、3年生が51.1%であった。

表1 性別

	n=90	(%)
1 男	70	77.8%
2 女	20	22.2%
3 答えられない	0	0.0%

表2 教職経験の年数

	n=90	(%)
1 0年～12年	26	28.9%
2 13年～25年	49	54.4%
3 26年以上	15	16.7%
4 答えられない	0	0.0%

表3 取得免許状の種類

	n=90	(%)
1 保健体育	80	88.9%
2 保健体育と他教科	7	7.8%
3 保健または保健と他教科	0	0.0%
4 養護教諭	0	0.0%
5 その他	3	3.3%
6 答えられない	0	0.0%

表4 大学生のとき、あるいは教諭として着任後の認定講習等で、保健科教育法ないし保健体育科教育法の講義科目を履修されましたか。

	n=90	(%)
1 保健科教育法を履修した	20	22.2%
2 保健体育科教育法を履修した(その中に保健科教育の内容も含まれていた)	23	25.6%
3 保健体育科教育法を履修したがその中に保健科教育の内容は含まれていなかった	1	1.1%
4 どちらも履修しなかった	15	16.7%
5 覚えていない	31	34.4%

表5 勤務されている学校の生徒数を教えてください。

	n=90	(%)
1 120人未満	6	6.7%
2 120人以上360人未満	11	12.2%
3 360人以上	72	80.0%
4 答えられない	1	1.1%

表6 何年生の授業を担当しましたか。

	n=90	(%)
1 1年生	19	21.1%
2 2年生	25	27.8%
3 3年生	46	51.1%

2. 保健授業担当者の決定方法（表7）

保健授業担当者の決定方法については、保健体育科の教師に平等に割り当てるが60.0%と最も多く、続いて、保健体育科の教師で同じコマ数とはいかないが全員で担当することにしたが34.4%、保健授業の専任者を置きその教師に任せたが3.3%、保健体育科の教師と養護教諭で同じコマ数とはいかないが全員で担当することにしたが1.1%であった。

3. 保健授業の取り組み（表8～15）

保健授業の実施状況に関して、授業はどのように行われていたかについては、冬期・梅雨期・学期末など、ある時期に授業時間を設け集中的に行うケース（一定期間集中型）が66.7%と最も多かった。続いて、不定期の雨の日や体育の授業が出来なかった時などに行うケース（不定期実施型）が27.8%、続いて、毎週あるいは隔週というように規則的に行うケース（一定期間継続型）が4.4%であった。学校施設などの諸事情によるものと予想されるが、いわゆる「雨降り保健」という実施ケースが少なからず存在することが明らかになった。

授業の編成については、男女別で行うことが多かったが71.1%、男女一緒に行うことが多かったが27.8%であった。

保健授業でディベートなどのディスカッション形式あるいはロールプレイングを取り入れた授業を行うことがあったかについては、1回から3回程度行ったが12.2%、実施する機会はなかったが86.7%であり、多くの学校でロールプレイングなどの方法が保健授業で取り入れられていないことが明らかになった。

実験・実習を行うことがあったかについては、1回から3回程度行ったと4回から6回程度行ったが合わせて45.5%、実施する機会はなかったが53.4%であった。

視聴覚教材を使用することがあったかにつ

表7 保健授業の担当者はどのように決めましたか。

	n=90	(%)
1 保健授業の専任者を置きその教師に任せた	3	3.3%
2 保健体育科の教師に平等に割り当てた	54	60.0%
3 保健体育科の教師で同じコマ数とはいかないが全員で担当することにした	31	34.4%
4 保健体育科の教師と養護教諭で同じコマ数とはいかないが全員で担当することにした	1	1.1%
5 その他	1	1.1%
6 答えられない	0	0.0%

表8 保健授業はどのように行いましたか。

	n=90	(%)
1 毎週あるいは隔週というように規則的に行った（一定期間継続型）	4	4.4%
2 冬期・梅雨期・学期末などのある時期に、一週間に複数回の授業時間を設け集中的に行った（一定期間集中型）	60	66.7%
3 不定期の雨の日や体育の授業が出来なかった時などに行った（不定期実施型）	25	27.8%
4 その他	1	1.1%
5 答えられない	0	0.0%

表9 保健授業の編成は男女別でしたか。

	n=90	(%)
1 男女別で行うことが多かった	64	71.1%
2 男女一緒に行うことが多かった	25	27.8%
3 その他	0	0.0%
4 答えられない	1	1.1%

表10 保健授業で、ディベートなどのディスカッション形式あるいはロールプレイングを取り入れた授業を行いましたか。

	n=90	(%)
1 1回から3回程度行った	11	12.2%
2 4回から6回程度行った	0	0.0%
3 7回以上行った	0	0.0%
4 実施する機会はなかった	78	86.7%
5 答えられない	1	1.1%

表11 実験・実習を実施することがありましたか。

（測定実験や人形を使った人工呼吸法の実習など）

	n=90	(%)
1 1回から3回程度行った	37	41.1%
2 4回から6回程度行った	4	4.4%
3 7回以上行った	0	0.0%
4 実施する機会はなかった	48	53.4%
5 答えられない	1	1.1%

表12 視聴覚教材（ビデオ等）を使用することがありましたか。

	n=90	(%)
1 1回から3回程度行った	52	57.8%
2 4回から6回程度行った	13	14.4%
3 7回以上行った	1	1.1%
4 実施する機会はなかった	24	26.7%
5 答えられない	0	0.0%

いては、1回から3回程度行ったと4回から6回程度行ったが合わせて72.2%、実施する機会はなかったが26.7%であった。

年度当初における1年間の保健授業の実施計画時間と実際に授業を行った時間は、1年生が13.6時間と9.1時間、2年生が12.1時間と8.6時間が、3年生が29.6時間と16.7時間であった。

保健授業の実施率「(実際/計画)の平均」は、1年生が67.6%、2年生が71.1%、3年生が56.4%であった。

教科書の学習内容は全て終えたかについては、90~100%終えたが42.2%、70~89%ぐらいは終えたが33.3%、50~69%ぐらいは終えたが16.7%、半分以下しか終えなかったが7.8%であった。

4. 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する授業の取り組みとその授業形態 (表16~17)

当年度において、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する授業を行ったとしたものに、その授業の教授方法や形式について回答を求めた。講義形式とともにビデオなどの視聴覚教材を利用する形式が61.8%、教科書や資料を利用し喫煙等の害について説明する講義形式が25.5%であった。喫煙等の誘いを断わるロールプレイングなどの実習や心理的過程を学習していく授業形態は行われていないことが明らかとなった。

なお、表17の選択肢1~4の全ての内容を網羅した授業形態で授業を行ったものが1.8%あった。

5. ニーズ『教材・教具』(表18~22)

保健授業をやりやすくするために希望する教材や教具については、学習内容に対応したビデオテープなどの視聴覚教材(とても希望する73.8%、まあ希望する22.6%)や、学習内容に対応した簡便で使いやすい実験・実習器具(とても希望する65.5%、まあ希望する

表13 年度始めにおいて計画された今年度1年間の保健授業の時間数(平均)と実際に授業を行った時間数(平均)

	(計画)	(実際)
1年生	13.6時間	9.1時間
2年生	12.1時間	8.6時間
3年生	29.6時間	16.7時間

表14 保健授業の実施率

	(実際)/(計画)
1年生	74.7%
2年生	75.7%
3年生	58.9%

表15 実施が予定されていた教科書の学習内容は全て終了しましたか。

	n=90	(%)
1 90~100%終えた	38	42.2%
2 70~89%ぐらいは終えた	30	33.3%
3 50~69%ぐらいは終えた	15	16.7%
4 半分以下しか終えなかった	7	7.8%
5 答えられない	0	0.0%

表16 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する授業を行いましたか

	n=90	(%)
1 保健の授業として行った	22	24.4%
2 保健指導の中でも扱ったし、保健の授業としても行った	33	36.7%
3 保健指導の中のみで扱い、保健の授業としては行わなかった	25	27.8%
4 その他	10	11.1%
5 答えられない	0	0.0%

表17 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する授業は、どのような教授方法・形式によって、その授業を行いましたか。

	n=55	(%)
1 教科書や資料を利用し、喫煙等の害について説明する講義形式	14	25.5%
2 講義形式とともに、ビデオなどの視聴覚教材を利用する形式	34	61.8%
3 講義形式とともに、喫煙等の誘いを断わるロールプレイングなどの実習を行う形式	0	0.0%
4 講義形式とともに、人が喫煙等に好奇心を抱いてしまうまでの心理的過程を学習する形式	0	0.0%
5 選択肢1から4の全ての内容を網羅した形式	1	1.8%
6 その他	6	10.9%
7 答えられない	0	0.0%

表18 学習内容に対応した掛け軸やペープサートなどの教材

	n=84	(%)
1 とても希望する	29	34.5%
2 まあ希望する	38	45.3%
3 今のままでよい	10	11.9%
4 あまり希望しない	7	8.3%
5 全く希望しない	0	0.0%

25.0%) が特に多かった。

教科書については、記述や構成に工夫が凝らされている教科書を希望するものが多い（とても希望する40.5%、まあ希望する36.9%が、今のままでよいとするものも少なくなかった17.9%）。

表 19 学習内容に対応したビデオテープなどの視聴覚教材

	n=84	(%)
1 とても希望する	62	73.8%
2 まあ希望する	19	22.6%
3今のままでよい	1	1.2%
4 あまり希望しない	2	2.4%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 20 簡便で使い勝手の良い実験・実習器具

	n=84	(%)
1 とても希望する	55	65.5%
2 まあ希望する	21	25.0%
3今のままでよい	4	4.8%
4 あまり希望しない	4	4.8%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 21 学習内容に対応したワークシートや文章教材

	n=84	(%)
1 とても希望する	41	48.8%
2 まあ希望する	24	28.5%
3今のままでよい	14	16.7%
4 あまり希望しない	4	4.8%
5 全く希望しない	1	1.2%

表 22 記述や構成に工夫が凝らされている教科書

	n=84	(%)
1 とても希望する	34	40.5%
2 まあ希望する	31	36.9%
3今のままでよい	15	17.9%
4 あまり希望しない	4	4.8%
5 全く希望しない	0	0.0%

6. ニーズ『授業の準備・計画段階でのサポート』（表23～27）

授業の計画・準備段階におけるニーズについては、授業のために教材研究をする時間を希望する教諭が極めて多かった（とても希望する66.7%、まあ希望する26.2%）。また、展開例が文章と写真で紹介されている授業記録の資料に対するニーズも高かった（とても希望する39.3%、まあ希望する38.1%）。

保健授業に関して問題や悩みが生じたとき、相談すればすぐに解決の糸口を示してくれる学内の同僚の存在、また学外の専門家の存在についてはいずれも希望するものが多い（前者、とても希望する31.0%、まあ希望する35.7%、後者、とても希望する38.1%、まあ希望する46.4%）が、今のままでよいとするものも少なくなかった（前者28.6%、後者10.7%）。

表 24 展開例がビデオの画像として紹介されている授業記録

	n=84	(%)
1 とても希望する	28	33.3%
2 まあ希望する	27	32.1%
3今のままでよい	13	15.5%
4 あまり希望しない	15	17.9%
5 全く希望しない	1	1.2%

表 25 授業のための教材研究をする時間

	n=84	(%)
1 とても希望する	56	66.7%
2 まあ希望する	22	26.2%
3今のままでよい	5	6.0%
4 あまり希望しない	1	1.2%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 26 保健授業に関して問題や悩みが生じたとき、相談すればすぐに解決の糸口を示してくれる学内の同僚の存在

	n=84	(%)
1 とても希望する	26	31.0%
2 まあ希望する	30	35.7%
3今のままでよい	24	28.6%
4 あまり希望しない	3	3.6%
5 全く希望しない	1	1.2%

表 23 展開例が文章と写真で紹介されている授業記録の資料

	n=83	(%)
1 とても希望する	33	39.3%
2 まあ希望する	32	38.1%
3今のままでよい	12	14.3%
4 あまり希望しない	5	6.0%
5 全く希望しない	1	1.2%

表 27 保健授業に関して問題や悩みが生じたとき、相談すればすぐに解決の糸口を示してくれる学外の専門家の存在

	n=84	(%)
1 とても希望する	32	38.1%
2 まあ希望する	39	46.4%
3今のままでよい	9	10.7%
4 あまり希望しない	4	4.8%
5 全く希望しない	0	0.0%

7. ニーズ『実践への意欲を維持する外的環境』(表28~33)

保健授業を熱心に取り組んでいこうとする教員集団の雰囲気については、まあ希望するものが多く(38.9%)、続いて、今のままでよいとするもの(33.3%)、とても希望するもの(25.6%)の順であった。一方、生徒の保健授業に対する熱心な取り組み態度や学習意欲を希望するものが多かった(とても希望する43.8%、まあ希望する31.5%、今のままでよい23.6%)。

保健の授業を担当できる保健体育教師や養護教諭等の増員については、それを希望するものが多かった(とても希望する48.9%、まあ希望する31.1%)。

保健授業が有意義なものであり、生徒の健康の保持増進にとって価値があるという社会的な評価についても希望するものが多かった(とても希望する62.2%、まあ希望する28.9%)。

生徒にとって価値のある有意義な授業をすることができたと教師自身が実感できるような授業の体験を希望するものが多かった(とても希望する43.8%、まあ希望する44.9%)。また、生徒が興味を持ち楽しみながら保健の学習を進めていたと教師自身が実感できるような授業の体験を希望するものも多くみられた(とても希望する57.3%、まあ希望する36.0%)。

8. ニーズ『研修』(表34~36)

研修について、保健の医学的な知識を学べる研修会は、とても希望するが38.2%、まあ希望するが52.8%となり、保健授業の指導法についての研修会は、とても希望するが36.7%、まあ希望するが52.2%であった。板書のテクニックが向上するような研修会は、とても希望するが13.3%、まあ希望するが43.3%であった。いずれも、とても希望すると回答したものは、そう多いとは言えないが、まあ

表 28 保健授業を熱心に取り組んでいこうとする教員集団の雰囲気

	n=90	(%)
1 とても希望する	23	25.6%
2 まあ希望する	35	38.9%
3今のままでよい	30	33.3%
4 あまり希望しない	2	2.2%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 29 生徒の保健授業に対する熱心な取り組みの態度、学習意欲

	n=89	(%)
1 とても希望する	39	43.8%
2 まあ希望する	28	31.5%
3今のままでよい	21	23.6%
4 あまり希望しない	1	1.1%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 30 保健の授業を担当できる保健体育教員や養護教諭等の増員

	n=90	(%)
1 とても希望する	44	48.9%
2 まあ希望する	28	31.1%
3今のままでよい	16	17.8%
4 あまり希望しない	0	0.0%
5 全く希望しない	2	2.2%

表 31 保健学習は有意義なものであり、生徒の健康の保持増進にとってたいへん価値があるという社会的な評価

	n=90	(%)
1 とても希望する	56	62.2%
2 まあ希望する	26	28.9%
3今のままでよい	8	8.9%
4 あまり希望しない	0	0.0%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 32 「生徒にとって価値のある、有意義な保健授業をすることが出来た」と先生自身が実感できるような授業の体験

	n=89	(%)
1 とても希望する	39	43.8%
2 まあ希望する	40	44.9%
3今のままでよい	8	9.0%
4 あまり希望しない	2	2.2%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 33 「生徒が興味を持ち、楽しみながら保健の学習を進めていた」と先生自身が実感できるような授業の体験

	n=89	(%)
1 とても希望する	51	57.3%
2 まあ希望する	32	36.0%
3今のままでよい	5	5.6%
4 あまり希望しない	1	1.1%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 34 参加すれば保健や健康問題についての医学的な知識や研究成果が学べるような研修会

	n=89	(%)
1 とても希望する	34	38.2%
2 まあ希望する	47	52.8%
3今のままでよい	7	7.9%
4 あまり希望しない	1	1.1%
5 全く希望しない	0	0.0%

希望するの回答者の多さから、研修会に対する潜在的なニーズはかなり高いものがあると言えよう。

表 35 参加すれば保健授業に関する指導法など実践的な教授能力を高められるような研修会

	n=90	(%)
1 とても希望する	33	36.7%
2 まあ希望する	47	52.2%
3今のままでよい	8	8.9%
4 あまり希望しない	1	1.1%
5 全く希望しない	1	1.1%

9. 保健授業に対する自己評価（表37～42）

昨年の保健授業について、うまくいったかどうかの自己評価をたずねたところ、どちらともいえないものが多く(41.6%)、まあうまくいっていたものが30.3%、あまりうまくいかなかったものが20.2%であった。いつもうまくいっていたものは1.1%にすぎなかった。

保健授業に意欲的に取り組んだかどうかについての自己評価では、まあ意欲的に取り組んだものが30.2%いる一方で、どちらともいえないものが36.0%、あまり意欲的に取り組まなかったものも29.1%あった。

保健授業の負担については、全く負担とは感じなかったものが12.4%、あまり負担とは感じなかったものが41.6%いる一方で、とても負担と感じたものが5.6%、少し負担と感じたものが19.1%あった。

保健授業を体育の授業と比較した場合の指導のしやすさについては、体育のほうが指導しやすいとしたものが61.9%、であり、同じ程度が35.7%、保健のほうが指導しやすいとしたものは2.4%にすぎなかった。

クラスのどのくらいの生徒が保健授業の学習内容を理解できたと思うかについては、クラスの2/4程度とする回答が最も多く、

表 37 本年度の自分の保健授業がうまくいったと思いますか。自己評価としてお答えください。

	n=89	(%)
1 いつもうまくいった	1	1.1%
2 まあうまくいった	27	30.3%
3 どちらともいえない	37	41.6%
4 あまりうまくいかなかった	18	20.2%
5 全くうまくいかなかった	6	6.7%
6 答えられない	0	0.0%

表 36 参加すれば自分の板書のテクニックが向上するような研修会

	n=90	(%)
1 とても希望する	12	13.3%
2 まあ希望する	39	43.3%
3今のままでよい	31	34.4%
4 あまり希望しない	8	8.9%
5 全く希望しない	0	0.0%

表 38 本年度、意欲的に保健授業の実践に取り組みましたか。自己評価としてお答えください。

	n=86	(%)
1 とても意欲的に取り組んだ	2	2.3%
2 まあ意欲的に取り組んだ	26	30.2%
3 どちらともいえない	31	36.0%
4 あまり意欲的には取り組まなかった	25	29.1%
5 全く意欲的には取り組まなかった	2	2.3%
6 答えられない	0	0.0%

表 39 本年度、保健授業を担当していて負担を感じましたか。

	n=89	(%)
1 とても負担と感じた	5	5.6%
2 少し負担と感じた	17	19.1%
3 どちらともいえない	19	21.3%
4 あまり負担とは感じなかった	37	41.6%
5 全く負担とは感じなかった	11	12.4%
6 答えられない	0	0.0%

表 40 保健授業と他の授業(体育も含む。養護教諭の場合は養護教諭の職務)どちらが指導しやすいと感じましたか。

	n=84	(%)
1 保健の授業の方が指導しやすいと感じた	2	2.4%
2 体育などの授業の方が指導しやすいと感じた	52	61.9%
3 同じ程度だと感じた	30	35.7%
4 答えられない	0	0.0%

表 41 保健授業で、クラスのどのくらいの生徒がその学習内容を理解できたと思いますか。

	n=84	(%)
1 クラス全員	2	2.4%
2 クラスの3/4程度	19	22.6%
3 クラスの2/4程度	46	54.8%
4 クラスの1/4程度	12	14.3%
5 答えられない	5	6.0%

表 42 中学校での保健授業が、生徒の現在また将来の生活に役立つと思いますか。

	n=84	(%)
1 とても役立つと思う	30	35.7%
2 まあ役立つと思う	44	52.4%
3 どちらともいえない	7	8.3%
4 あまり役立つとは思わない	3	3.6%
5 全く役立つとは思わない	0	0.0%
6 答えられない	0	0.0%

54.8%であった。

中学校の保健授業が、生徒の現在または将来の生活に役立つかどうかについては、肯定的に考えるものがほとんどであった（とても役立つと思う35.7%、まあ役立つと思う52.4%）。

10. 保健授業の担当者について (表43)

保健学習の担当については、基本的に保健体育教師が担当し授業の内容によっては養護教諭が担当するのが適切とするものが54.2%と非常に多かった。続いて、保健体育教師でもなく養護教諭でもなくいずれは保健科の専任教師を養成しその専任者が保健の授業を担当するのが適切とするものが22.9%あった。保健体育教師がすべて担当するのが適切とするものは12.0%であった。

11. 研修会への参加とその評価 (表44~46)

保健授業の研修会や講習会あるいは自主的研究サークル等への参加について、参加する機会がなかったものが非常に多かった（79.5%）。

参加したものにその研修会が今後の実践に役立つものであったかどうかをたずねたところ、とてもそう思うとまあそう思うという肯定的な回答が88.2%という高値となり、保健授業の研修会や講習会などの評価はかなり高いことが明らかとなった。

また、中学校で保健授業を実践するにあたり、大学時代の講義あるいは認定講習等での講義が役立ったかどうかについてたずねたところ、とてもそう思うとまあそう思うという肯定的な回答が29.3%という低値であり、逆に、あまりそう思わないと全くそう思わないという否定的な回答が46.3%と高値であった。

表 43 保健の授業は、どの教師が担当するのが適切であると考えますか。

		n=83	(%)
1	保健体育教師がすべて担当するのが適切	10	12.0%
2	基本的に保健体育教師が担当し、授業の内容によっては養護教諭が担当するのが適切	45	54.2%
3	基本的に養護教諭が担当し、授業の内容によっては保健体育教師が担当するのが適切	3	3.6%
4	養護教諭がすべて担当するのが適切	0	0.0%
5	保健体育教師でもなく養護教諭でもなくいずれは保健科の専任教師を養成し、その専任者が保健の授業を担当するのが適切	19	22.9%
6	その他	5	6.0%
7	答えられない	1	1.2%

表 44 本年度、公的機関が主催する保健授業に関する研修会や講習会、また、自主的研究サークル等による研修会や講習会に参加しましたか。

		n=83	(%)
1	1回から3回程度参加した	17	20.5%
2	4回から6回程度参加した	0	0.0%
3	7回以上参加した	0	0.0%
4	参加する機会はなかった	66	79.5%
5	答えられない	0	0.0%

表 45 参加された研修会や講習会は、保健授業をするにあたり、ためになるもの、役立つものであったと思いますか。

		n=17	(%)
1	とてもそう思う	9	52.9%
2	まあそう思う	6	35.3%
3	どちらともいえない	1	5.9%
4	あまりそう思わない	1	5.9%
5	全くそう思わない	0	0.0%
6	答えられない	0	0.0%

表 46 本年度、中学校で保健授業をするにあたり、大学生のときに受講された(認定講習等含む)保健に関する講義の内容は、役立ったと思いますか。

		n=82	(%)
1	とてもそう思う	6	7.3%
2	まあそう思う	18	22.0%
3	どちらともいえない	20	24.4%
4	あまりそう思わない	25	30.5%
5	全くそう思わない	13	15.8%
6	答えられない	0	0.0%

12. 学習内容別の「やりにくさ」（表47）

中学校の保健授業における学習内容を、学習指導要領（平成元年）の記載内容に沿い17つに分け、それぞれの学習内容を授業で扱うときのいわゆる「やりにくさ」を、「とてもやりにくいと思う（5点）」から「全くそうは思わない（1点）」の5段階評価で回答を求めた。個々の回答者数と得点をかけて出てきた数値を累積し、それを全回答者数で割ったものを「やりにくさの値」とした。

17項目の中で、「やりにくさの値」が高値を示した学習内容を5つ指摘すると、『個人の健康と集団の健康』、『水の利用と確保』、『知的機能、情意機能、社会生の発達と自己の形成』、『生活に伴う廃棄物の処理』、『心の健康』となった。これらの5つの学習内容は、新学習指導要領にも基本的に継承される内容であるので、今後これらの「やりにくさの値」が低下していくようなサポート体制の整備が必要であろう。

【まとめ】

本稿は単純集計のみの結果報告となったが、保健授業の円滑な実践に向けてのサポート体制を整えていく際の、いくつかの貴重なデータを得ることができたと思われる。

保健授業の取り組みであるが、その実施方法において、不定期実施型いわゆる「雨降り保健」としての保健授業の実施クラスが、27.8%にも及んだ。学習が全く行われぬより、「雨降り保健」でも実践されるだけ好ましいとする考え方もあるだろうが、不定期の実施では、学習の系統性を図ることも難しく、生徒の学習への意欲にも悪影響を及ぼすことも予想される。また、平成14年度からの学習指導要領にもその実践が求められている課題解決的な学習や実験・実習などを保健授業に取り入れる際には、ある程度明確な単元計画とその計画的な実践が不可欠であり、これからの保健授業をより充実させるためにも、計画された授業時間が確保されていくような学校経営・学級経営のサポート体制づくりが望まれる。

保健授業でディベートやディスカッション形式あるいはロールプレイングを取り入れた授業の実施について、そのような形式を採用しなかったとする回答が86.7%と、高値を示した。また、実験・実習の授業の形式を採用しなかったとする回答が53.4%と半数を示した。

この数値は多くの学校・学級では、ロールプレイングなどの形式また実験・実習を取り入れた形式での授業が行われていないことを意味するものである。平成14年度からの学習指導要領では、「実践的な理解」というキーワードのもと、これまでの講義形式一辺倒の保健授業から、ロールプレイングなどの形式や実験・実習の形式も取り入れた保健授業の実践が求められている。ここに現状と新たに求められる保健の授業像の間に大きなギャップを見ることができる。

表 47 学習内容別の「やりにくさの値」

	「やりにくさの値」
・身体機能の発達、二次性徴の発現	2.39
・知的機能、情意機能、社会生の発達と自己の形成	2.85
・心の健康	2.84
・身体環境に対する適応能力	2.35
・環境の至適範囲と許容範囲	2.68
・水の利用と確保	2.88
・生活に伴う廃棄物の処理	2.85
・傷害の発生要因とその防止	2.17
・交通事故の発生要因とその防止	2.54
・傷害の応急処置	2.05
・疾病の発生要因とその予防	2.18
・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康	2.22
・疾病の応急処置	2.04
・適切な運動などの身体活動と健康の増進	2.52
・食事と健康の増進	2.76
・疲労の発生とその回復	2.64
・個人の健康と集団の健康	2.91

今まで行ってこなかったことを新たに行おうとする際には、戸惑いと混乱が生じることは予想に難くない。そのような状況の発生を回避するためにも、新しい授業形式やその指導法を教師により良く伝える講習会開催などのサポート体制の充実が、移行期の今こそ求められるであろう。

保健授業の実施率は、1年生で74.7%、2年生で75.7%、3年生で58.9%であった。実施率の低い3年生では、年度当初の計画が29.6時間、実際に行われた時間が16.7時間となり、削除された時間が12.9時間にもなることが明らかとなった。約13時間にも及ぶ授業時間のカットは、系統的な学習の実施や、講義形式だけでない工夫された授業方法での授業の実施、生徒の保健学力の保障を困難にすることは予想に難くない。約13時間にも及ぶ授業時間を削除しなければならない状況が中学校には存在するという認識のもと、この時間削除の割合が少しでも低下していくような、学校経営上のサポート体制の構築が求められよう。

喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する授業では、今回の調査においては、喫煙の誘いを断るロールプレイングなどの実習や喫煙行動までの心理過程を学びながら喫煙行動を起こさないようにするといった授業の実践は見受けられなかった。前述のとおり、学習指導要領の完全移行を控え、ロールプレイングなど新しい指導法を教師へ適切に伝える講習会開催などのサポート体制の充実が今こそ求められるであろう。

保健授業を実践しやすくするためのサポート体制としては、教材・教具に関しては、今以上により多くのビデオテープなどの視聴覚教材と、使いやすい実験・実習器具の配布体制を整えることが必要であろう。

授業の準備・計画段階でのサポートに関しては、まず、教師が教材研究をする時間を今以上に長く持てるような学校経営の体制づくりが必要であると同時に、現状のように教材研究をするには不十分な時間しか確保できない現状においては、授業の展開例がわかりやすく紹介されている授業記録の資料が今以上に開発され配布されることが必要であろう。また、授業実践に関しての疑問などが生じた際に、気軽に質問できて解決の糸口を見つけられるような、人的ネットワークの構築も望まれる。

実践への意欲を維持する外的環境に関しては、同じ教員集団において保健授業への取り組みに対し積極的・肯定的な雰囲気は保たれていくような体制づくり、同時に、授業実践に対するある程度の共通見解や共通目標が共有できる体制づくりが必要であろう。また、保健授業に対する社会的な評価を今以上に高め、社会全体が保健学習に期待を寄せていくような体制づくりも必要であろう。また、教師自身が自らの実践の価値を自覚でき、自らの実践を肯定することができる感覚を数多く体験できるような体制づくりも望まれる。

研修会については、保健医学的な内容のもの、また、教授方法に関する内容のもの、いずれもそのニーズは高く、今以上に現職教員が参加しやすく価値の高い研修会を開催する体制づくりが望まれる。

保健授業と体育の授業との指導のしやすさを比較した場合、体育のほうが指導しやすいとするものが61.9%、保健のほうが指導しやすいとするものが2.4%であった。このアンバランスは授業時間の確保の問題や保健授業の指導方法において、マイナスの要因として働くことが予想に難くない。保健授業の実践・指導も「行いやすい」と教師が思えるような、サポート体制の整備の必要性がここでも明らかとなっている。

保健授業の担当者については、基本的に保健体育教師が担当し授業の内容によっては養護教

論が担当するのが適切を回答するものが54.2%と半数を超えた。ここから、今後は養護教諭がどのような学習内容に対しどのような形で保健授業に関わっていくことが有効かということを押さえた、サポート体制づくりが望まれる。同時に、保健科の専任教師の養成とその者の授業の担当を適切とする回答が22.9%と少なからず存在し、このデータへの検討も今後必要となるであろう。

保健授業に関する研修会へ一度も参加しなかったとするものは、79.5%と高値を示した。逆に研修会に参加した教師の、研修会に対する肯定的な評価（授業に役立つものかどうか）は比較的高かった。研修会には一定の価値があるといえるわけで、今後は、研修会に参加していない教師に対しての、研修会に参加しやすくなる（参加したくなる）サポート体制づくりが望まれる。また、大学等における教員養成段階での教育内容について、中学校の教育現場ではあまり役に立たないとする否定的な回答が多かった。教員養成段階での教育内容の改善も大きな課題である。

学習内容別において、授業を行う際「やりにくさ」の感覚が高まる内容は、『個人の健康と集団の健康』、『水の利用と確保』、『知的機能、情意機能、社会生の発達と自己の形成』、『生活に伴う廃棄物の処理』、『心の健康』となった。これらの5つの学習内容は、新学習指導要領にも基本的に継承される内容である。これらの学習内容を円滑に指導できるように、これらの学習内容の実践を対象とした集中的なサポート体制の整備が望まれる。

なお、本研究の一部は文部省；科学研究費（奨励研究A）の助成による。

謝辞

本調査実施にあたり快くご理解とご協力をいただいた静岡県教育委員会体育保健課指導主事様、静岡県下市町村教育委員会様、また学年末のお忙しい時期にも関わらずアンケートにご回答くださった各学校の先生方に、心より厚く御礼申し上げます。今後は、先生方のお示しになった保健授業をより円滑に実践するためのニーズを、広く関係各位に伝え、関係者の総意によって、より良いサポート体制が構築されるよう努めて参ります。

【参考文献】

- ・ 大津一義、大沢清二他 中学校・高等学校における保健授業に関する調査 学校保健研究 1979；21(1)：502-512
- ・ 上野純子、大津一義他 教師（中・高）を対象にした保健授業の実態に関する調査研究 学校保健研究 1980；22(10)：458-468
- ・ 渡辺 功 中学校における保健授業の実態調査に関する研究 学校保健研究 1982；24(5)：234-241
- ・ 藤江善一郎、堀内久美子他 小学校における保健学習・指導の調査研究 学校保健研究 1984；26(8)：374-383
- ・ 小沢治夫、渡辺功他 都内高等学校における保健科教育の実態調査 学校保健研究 1991；33(12)：581-587
- ・ 門田新一郎 中学校保健体育教師を対象とした養護教諭の保健授業担当に関する調査研究 日本公衆衛生雑誌 2000；47(6)：530-537